

# JAあきた白神 園芸メガ団地

## 『白神ねぎ』10億達成プロジェクト



研修終了後みんなで記念撮影



## Welcome to 白神ねぎ

Shirakami-Negi achieve two billion yen sales project

農業協同組合設立初期段階の開発途上国を対象とした約2ヶ月間に及ぶJICA課題別研修の工程に、白神ねぎの生産振興施策が組み込まれたことにより、6月19日に10カ国の代表者らが視察に訪れました。

「言語は違えども皆同じ農業関係者。共にその発展に力を尽くしましょう」と組合長が歓迎のあいさつをしました。

佐藤宮農部長はプロジェクトを用いて通訳を介しながら白神ねぎの生産振興にスポットをあてた解説をし、その後、会場を白神ねぎ園芸メガ団地に移し取組内容を説明しました。マラウィ共和国農業灌漑水資源開発省のロドリックさんは「ねぎの生産拡大施策という貴重なお話を聞けた。母国に持ち帰り国の農業発展に役立てたい」と述べられました。



流暢な日本語で説明する佐藤宮農部長

## 出荷目前に悩ませる雨不足

園芸部会

JAあきた白神園芸部会（畑山悦雄部会長）による、スナップエンドウ現地栽培講習会並びに目揃会が6月12日に開かれ、生産者32名が参加し、生育状況や病害虫の防除方法、出荷規格の確認を行いました。

講師として参加した能代市農業技術センターは「深刻な雨不足により管内の草丈も低く、生産者も追肥のタイミング等に思い悩んでいると思う」とねぎらいました。

参加した生産者からも「水不足による影響から生じる乾燥度合いを示す目安を教えてください」といった質問が出るなど、今般の深刻な雨不足は生産者を悩ませております。



生育状況を確認する生産者



草刈り作業を行う佐藤青年部長

## JA秋田やまもと青年部と地域貢献活動

青年部

青年部（佐藤一樹部長）は6月12日に、JA秋田やまもとの青年部と合同で、能代厚生医療センター敷地内を各々持参した草刈り機を用いて慣れた手さばきで草刈り作業を行いました。

「地域に無くてはならない存在の能代厚生医療センターに、青年部として出来る恩返しがこの草刈り。今後もこのような活動を通じて地域に貢献していきたい」と佐藤青年部長は話します。敷地内の雑草は両青年部員総勢25名の活躍により2時間程度で綺麗に刈り取られました。一汗かいた後、交流会では農業や今後の青年部活動について活発に情報交換が行われました。

